

水俣湾のヘドロから

高い総水銀検出

課査
害調
公染
県汚

県公害課は二十四日、水俣湾周
辺水域の四十四年度水銀汚染調査
結果を発表した。

それによると、海水からは水俣
病の原因とされるメチル水銀や、
無機水銀を含めた総水銀は検出さ
れなかった。しかし、泥土中から

は厚生省が決めている水銀に関す
る暫定環境基準を越えて、かなり
高濃度の総水銀が検出された。

特に百間港に通ずるチッソ水俣
工場の主要排水口付近では、最高
三一九PPMが記録され、また泥

の中に生息するアサリ貝からもか
なりの総水銀を検出。水俣湾水域
は現在もかなり水銀で汚染されて
いることがはっきりした。同課で
は百間港を中心に、海浜に積もつ
た水銀を含むヘドロについて、な
んらかの措置をとる必要があると
している。

この調査は四十四年二月、経済
企画庁による水質保全法の水域指
定に基づいて行なわれたもので、
県では熊本大学医学部衛生学教室
の入鹿山且朗教授に調査を委託し

ていた。

調査地点は水俣湾を中心に三十
八年の調査と同じ十六カ所のほ
か、新たに水俣川河口、八幡プール
（水俣工場のカーバイドかす沈殿
池付近など四カ所が追加された。
調査結果によると、水中のメチ

ル水銀、総水銀は水俣湾、排水
口、水俣川のどの測定点からも検
出されず、水銀関係排水の処理水
をためた貯水池からも検出されな
かった。しかし、水俣港から、一
き足らずの百間排水口や、水俣川

河口付近の泥土中からかなりの総
水銀が検出され、同工場百間排水
ポンプ室前では、最高三一九PP
Mの総水銀が検出された。

三十七年当時、最高五八PPM
を記録した魚類中の水銀は、今度
の調査では平均〇・五PPM以下
の総水銀量だった。これは厚生省

の暫定基準を下回っており問題に
なる濃度ではないとされている。

しかし、アサリ貝からの総水銀
は四十三年八月ごろの入鹿山教授
の調査で十々よりも高い値を示

し、水俣湾の窓路島付近では最高
一五・一PPMが記録され、水俣
湾に積もっている泥土中の水銀が
影響しているとみられている。

同県では魚類に比べて、多量の
総水銀がアサリ貝に含まれている
ことに注目、今後調査を継続する
要があるとしている。